

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

「反対貫くことが攻撃はね返す」

動労千葉 館山運転区・木更津支区廃止反対闘争の教訓



動労千葉は、07年3月の館山運転区・木更津支区廃止に対し、9ヶ月にわたり闘いぬきました。JR発足以来最大の組織破壊攻撃でした。「基地廃止はそこで働く者の団結と生活の基盤を全て破壊するということだ。簡単にくつがえるものではない。だからこそ、最後の日まで絶対反対の立場で闘いぬくことだけが、この攻撃をはね返し、団結を守りぬく唯一の道だ」

動労千葉はこの意思統一のもと闘い抜き、団結破壊という最大の狙いを打ち破りました。

職場・地域から怒りの声あがる

動労千葉は基地廃止問題を内房線沿線の自治体などに訴えました。廃止提案が内房線のさらなる列車削減・切り捨てを意味するからです。

地域の反応は予想を超えました。次々に怒りの声があがる中、地域集会の成功ががちとられました。街頭宣伝でも「署名運動もやってほしい」「JRはひどい」「地元のことなど考えていない」と声があがりました。

地域集会の成功

で、職場の雰囲気はガラッと変わりました。何よりも組合員は、闘いの正義性とJRに何一つ理がないことを確信し、自信に満ちていきます。

職場で取り組まれた「館山運転区・木更津支区廃止反対署名」には運転職場の多くで東労組の平成採用者ほとんど全員が署名に協力し、同じ時期に提案された「ライフサイクルの深度化」提案への怒りと一体で声があがりました。

「反対」貫く闘いが会社追い詰める

基地廃止が近づくと、組合員をバラバラに配転するために様々な攻撃が行われました。これに対し、動労千葉は職場からの徹底的な抗議行動で反撃しました。また、面談で希望職場について第三希望まで書かせ、「本人希望」という形で不当配転を行おうとしました。動労千葉は組合員と何度も議論し、全員が一致して「一本書き」の方針を確立しました。

現場管理者は団結破壊に躍起になりましたが、現場での徹底した抗議で反撃しました。そして、2月27日に組合は「非協力闘争」を掲げて団交に臨みました。千葉支社の回答はそれまでとはうって変わって「希望については最大限尊重する」というものでした。JR発足以来、はじめての事態です。現場から団結と「反対」を貫く真剣な闘いは、会社を完全に追い詰め、団結破壊という最大の狙いを打ち破りました。